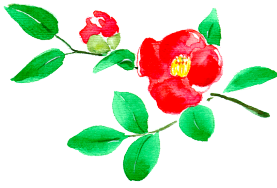


青少年育成センターだより

第60号 平成31年2月



「子どもは5歳までに、その生涯に学ぶべきものを学び終わる」とドイツの教育学者フレーベルが言っています。幼児期の教育は生涯にわたる教育の礎石であることを言いたかったのでしょう。

「子どもの心は、首が狭く、くくれている、ツボのようなものだから一滴一滴と、すこしずつそそぎ込めば、たくさんの学習をきちんと吸収するものだ。ところがいちどに流し込もうとするものだからあふれて、こぼれてムダになってしまう」
(周郷博「母と子のうた」より)

この言葉も幼児期の教育の在り方について大きな示唆を与えてくれます。幼児期にある子どもをもつお父さん、お母さん頑張ってください。

横断歩道での光景(2)

以前、「青少年育成センターだより第50号」で、防府の街を巡視している時に気になった横断歩道での出来事を2つ紹介しました。

今回も横断歩道での光景で気になることを紹介します。今回は人ではなく車のことです。車を運転されるみなさんは、当然知っておられることでしょう。横断歩道では、「歩行者がある場合は、一時停止をしなければならぬ」ことを。

・車両等は、横断歩道に接近する場合には、直前で停止することができるような速度で進行しなければならない。歩行者があるときは、横断歩道の直前で一時停止し、かつ、その通行を妨げないようにしなければならない。(道路交通法38条)

さて、みなさんは横断歩道を横切る時は、どうしておられるでしょうか。

私は街中を巡視中、横断歩道前で待っている子どもの姿をたくさん見ます。しかし、停止する車は少ないように思います。子どもたちは学校で、「手を挙げて、左右を見てから渡りましょう」と習っています。子どもたちは、手を挙げれば車は止まってくれるのだと思っています。しかし、車が止まってくれなかったらどうでしょうか。子どもは止まってくれない車や大人に対してどのように思うのでしょうか。信頼してくれるのでしょうか。子どもの見本にならなければならない立場にある大人がこのようなことでいいはずはありません。

JAFが調査した結果があります。全国のあらかじめ定めた場所で、信号機が設置されていない横断歩道を通る車両、11,019台を調査したところ、歩行者が渡ろうとしている場面で一時停止した車はわずか948台(8.6%)という結果になっています。全国で一番良い結果となったのが長野県の58.6%です。そして、山口県は、6.7%となりました。この数字は、全国平均よりも低い数字です。みなさんはこの結果をどのようにとらえられるでしょうか。私は、反省しなければならない数字だと思います。

全国的に、横断歩道での事故は多く、昨年1月には、「5歳の男児が横断歩道を渡っていたところ、車にはねられ亡くなった」という悲惨な事故も起きています。大人の不注意で、小さな子供の将来が一瞬にして消えたことはとても悲しいことです。

私たち大人が、交通ルールを守る姿を見せることが子どもの規範意識の向上につながるのです。子どもから尊敬され、信頼される大人になるよう努めましょう。

「防府市民は、車のマナーが良いね」と言われるようになりたいものです。

問合せ先：防府市教育委員会生涯学習課 青少年育成センター(23-3013)